



大分県は6月12日、県内の2019年人口動態統計(概数)を発表しました。

「令和婚」婚姻6年ぶり増

出生数8年連続最少更新

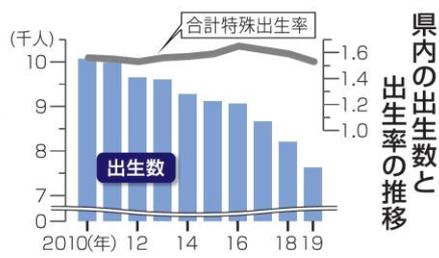
県内19年人口動態統計

県は12日、県内の2019年人口動態統計(概数)を発表した。出生数は7624人で、統計開始(1899年)以降の最少を8年連続で更新。減少傾向にあった婚姻件数は、改元を記念した「令和婚」の影響で6年ぶりに増加した。県は「結婚するカップルが増えれば、来年以降の出生数が増える可能性もある」と期待している。

【出生数】2018年比576人減の7624人。1人の女性が生涯で産む子どもの数を推計した合計特殊出生率は1.53と、18年より0.06低下があった。全国平均は1.36。大分県は前年より順位を二つ落とし、全国13位だった。

【死】1万4614人。県は、出生数の多い20、30代女性の人口減少が原因と分析している。

18年に比べ122人増え、4年連続の増加となった。死因別ではがんが25.1%で最多。心疾患14.7%、老衰8.3%と続いた。



【結婚・離婚】婚姻件数は4955組で18年より1死亡数が出生数を上回る人口の自然減は21年連続。減少幅も拡大傾向にあるという。

51組増え、婚姻率(人口千人当たり)は0.2増の4.4。改元した5月だけで788組(前年同月比462組増)が婚姻届を提出した。

平均初婚年齢は男性が30.7歳と18年比で0.3歳、女性が29.4歳で同0.4歳それぞれ上がった。離婚件数は同13組増の1944組だった。

県は「出会いサポートセンターの利便性向上や不妊検査費助成の拡充など、県民の結婚や子育ての希望をかなえられるよう引き続き取り組んでいく」と話した。(三井祥聖)

① 2019年の県内の出生数と死亡数は、前年比何パーセントでしたか？(小数点第二位は四捨五入)

出生数 93.0%
 2019年 7,624人 ÷ 前年
 (7,624 + 576)人 × 100
 死亡数 100.8%

2019年 14,614人 ÷ 前年
 (14,614 - 122)人 × 100

② 人口の自然減は何人でしたか？

6,990人
 (出生数 7,624人 - 死亡数
 14,614人 = -6,990人)

③ 婚姻件数が6年ぶりに増加したのはなぜ？

改元を記念した「令和婚」の影響があったから。

④ 少子化問題について、あなたの意見を書いてください。

「新型コロナウイルスの影響で経済状況が悪化しており、少子化に拍車がかかる可能性がある。結婚や子育てを望む人たちを、行政だけでなく企業や地域が一体となってサポートする必要がある。少子化の傾向は今後も続くと思われるが、仕事と子育てが両立しやすい社会であってほしい」など。